

講義名	対)旅行事業経営論			
担当教員	山川 拓也			
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要

旅行業を含む観光産業は世界的に成長を続けてきた産業の一つであった。日本でも、2019年の訪日外国人旅行者数は3188万人まで増加し、日本人の出国旅行者数も初めて2000万人を超える2008万人になると、いずれも過去最多を記録した。また世界中の国際観光客到着数(推計)は、2018年時点でも年間14億人とされ、2030年時点でも年間16億人に拡大すると予測されていた(国連世界観光機関/UNWTO)。しかしCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)の影響を受け、予測の見直しを余儀なくされている。

一方、観光産業を取り巻く環境や社会構造が大きく変化する中において、旅行者の移動や交流を支える旅行会社の果たす「流通」的な役割は一層の重要性を増していくと考えられる。そこで本科目では、旅行業の成り立ちや基本的な構造と特性、旅行市場や事業を取り巻く世界的変化、旅行業としてのビジネスモデルの拡張と変革などに関して、産業論や経営学の観点から幅広く解説していく。

到達目標

我が国における現代の旅行ビジネスおよび産業的な構造を把握・理解できるようになる。
現在の旅行事業経営に関する気づきから、問題点・機会点を客観的に分析し、将来の旅行事業の在り方や方向性について考え、論理的に説明できるようになる。

提出課題

- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「ミニッツ・ペーパー」(responにて実施)
- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「理解度確認(小テスト)」(Ryuka portal内のmoodleにて実施)
- ・期末レポート(詳細については、授業の中で説明する)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

「理解度確認(小テスト)」に関しては、翌週の授業までにRyuka portal上に正答と解説を記したフィードバック画面を開示する。また「ミニッツ・ペーパー」の内容で解説等を加える必要があると判断したものは、合わせてフィードバック画面に記載する。

評価の基準

下記による総合評価とする。

毎回の「理解度確認(小テスト)」の累積得点率: 30%
 期末レポート: 30%
 期末試験(対面方式にて実施予定): 40%

*毎回の出席確認は、responを用いて厳格に実施する。
 *「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、教室内に居た者であっても当日の出席は無効とする。
 *の「理解度確認(小テスト)」の提出がない場合、得点は0(ゼロ)点となり、成績評価に影響を及ぼす。
 *累積の欠席回数が5回以上にあつた場合、評価を受ける資格がなくなる。(欠格/E)
 *遅刻(到着の遅延を認めない)は、2回で1回の欠席としてカウントする。
 *スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
 *ミニッツ・ペーパーの記述内容が優れた場合、一定基準のもとで加点する。

履修にあたっての注意・助言他

授業は専門内容を多く含むものとなる。旅行業への就業希望者ならびに旅行事業に関心の高い人でない限り、安易な気持ちでの履修は苦しみことになる。その点を十分に考慮・理解した上で履修を検討すること。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

プリント資料: 毎回の授業では講義レジュメを配布し、パワーポイントを使用して授業を実施する。
 参考文献: 立教大学観光学部旅行産業研究会編著『旅行産業論』(公益財団法人日本交通公社)、高橋一夫・大津正和・吉田順一編著『1からの観光』(碩学会)、高橋一夫・松本千春編著『1からの観光事業論』(碩学会)

授業計画

1. ガイダンス(科目概要・授業方法・成績評価等の説明)
2. 旅の史的変遷と旅行業創生/近代的旅行業の始まり
3. 旅行会社の現況と業態/旅行業の自立的産業への過程
4. 国内旅行市場の変遷と現状/海外旅行市場の変遷と現状
5. 旅行商品と旅行業経営の特性
6. 旅行業法の概略/旅行契約の概要
7. 旅行商品のバリエーション
8. 旅行業における事業型企画旅行商品の意義と課題
9. 旅行者行動の変化と旅行市場
10. <展開事例研究>オンライン旅行会社(OTA)による旅行業のイノベーション
11. <展開事例研究>クラウドツーリズムによる顧客参加型マーケティングの実装
12. <展開事例研究>JTBにおける法人営業のソリューションビジネスへの変化
13. <展開事例研究>H.I.S.の海外進出にみる旅行業の国際経営
14. 成熟市場にみる旅行・観光の新しい挑戦とマクロ・マーケティングの視点
15. まとめと総括

<備考>
 ・新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学困難となった場合は対面授業の中での対応とする。(オンデマンド授業へ移動はしない)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

(予習: 120分/回)
 ・旅行会社や旅行事業に関する記事・文献等を収集して整理し、授業に向けた予習に努める。
 (復習: 120分/回)
 ・授業の内容(特に理論の説明)を整理し、周辺事例と照らし合わせるなどして理解に努める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目の目標に到達することは、観光ビジネスを理解する上で必要となる旅行事業に関する知識を修得し(目標)、旅行事業に留まらない全体的な観光マーケティングや観光マネジメント等に接続して考えられるようになる(目標)ことであり、本学と本学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に関連する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・毎回の授業後に実施する「理解度確認(小テスト)」や「ミニッツ・ペーパー」等の課題への取り組みにおいて、moodleやrespon等のICTを活用する。
- ・必要に応じて授業中でもresponを使用し、意見収集等を行うことがある。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
 旅行業および旅行サービス手配業の実務経験(欧州を中心とする海外団体旅行の企画作成、営業、添乗、海外駐在、市場戦略策定)ならびに「総合旅行業務取扱管理者」(国家資格)の知識・知見を活用し、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

備考

- ・本科目は「座席指定制」にて実施する。進捗状況によって授業の進行方法や内容を変更する場合があります。その場合には事前に告知する。
- ・新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学困難となった場合は対面授業の中での対応とする。(オンデマンド授業へ移動はしない)